



## 年頭のごあいさつ 庄原市長 木山耕三

明けまして、おめでとうございます。  
市民の皆様には、希望に満ちた健やかな新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

旧年中は市政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年7月に発生した豪雨災害から半年が経過しました。記録的な大雨により西日本を中心に甚大な被害が生じ、本市でも家屋や農地、道路などに深い傷痕を残しています。被災された皆様に改めてお見舞い申し上げますとともに、多くの皆様から物心両面にわたりご支援をいただき、感謝の念に堪えま

せん。引き続き、被災された方々に寄り添い、職員一丸となって、復旧・復興への歩みを着実に進めてまいります。

一方、市長就任以来、極めて重要な課題と捉え、粘り強く働きかけを行ってまいりました庄原赤十字病院での産科再開が13年ぶりに実現し、5月には再開後初めての赤ちゃん誕生により、市民の皆様と一緒に喜びを分かち合うことができました。産科再開は、市と庄原赤十字病院の連携した取り組みはもとより、関係機関並びに市民の皆様のご理解とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

また、7月には「こども未来広場」に小児科診療所・病児病後児保育施設を開設する運びとなり、子育て世代の皆様が実感できる環境の整備を図ることができました。産科の再開と相まって、未来を担う子どもを安心して産み、育てる環境づくりがまた一歩前進したものと確信しています。

この他にも、国営備北丘陵公園の北入口エリア「里山の駅 庄原 ふらり」がオープンし、社会実験事業をスタートしました。国をはじめとする関係機関と協働しながら、引き続き、本市の魅力を伝える交流拠点として最善を尽くしてまいります。

した、超高速情報通信網の整備が完了し、市内全域でサービスの提供が可能となり、光回線を利用した緊急情報や行政情報の伝達に加え、都市部との情報格差の解消によりさまざまな面で大きな役割を果たすものと期待しています。

7月豪雨災害から2年目を迎える本年は、災害復旧事業に最優先で取り組みます。

農地・農業用施設、市道などの復旧工事に関しましては、国の査定終了に応じて緊急度の高いものから順次発注し、一日も早い復旧に努めますが、国の制度により、被災後3年間で実施することから、関係する皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解ご協力をお願いします。

併せて、このたびの災害を教訓に市民の皆様のご意見を踏まえながら、地域防災計画の見直しや避難所運営マニュアルの策定に取り組みなど、災害に強いまちづくりの礎を築いてまいりたいと考えています。

さらに、「第2期長期総合計画」および「庄原いちばんづくり」に掲げた施策・事業を着実に進めてまいりたいとの決意を新たにしています。

本市の最重要課題と位置付けられる人口減

少の抑制に向けた取り組みでは、官民連携によるオール庄原体制の組織を立ち上げ、現在、人口減少対策に効果的な事業の検討、議論を進めており、持続可能で活力ある庄原市の発展につなげてまいり所存です。

その他、主な事業としましては、西城保育所の新築整備に着手するほか、現在JR備後庄原駅舎内にある子育て支援施設ひだまり広場を、こども未来広場に移転新築し、6月からの供用開始を予定しており、さらなる子育て環境の充実を図ることとしています。

また、庄原市民会館と庄原自治振興センターの整備方針を決定し、基本計画の策定に着手します。

さらには、4月から、庄原市斎場「和の丘」が、式場の使用を含め全面供用開始の予定です。これに伴い、市内3カ所に斎場を再編することとなりますが、安心・安全で心穏やかに故人をお見送りいただけるものと受け止めています。

本年も、安心を実感し、夢と誇りを持てる「庄原いちばん」の実現に全力を尽くします。

市民の皆様の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様にとって幸多き年となりますよう、心より祈念いたしました。年頭のごあいさつといたします。



10月 いざなみっく 2018 ～第2回比婆いざなみ街道マラニック～ 開催



6月 小児科診療所・病児病後児保育施設 落成



4月 庄原赤十字病院 産科再開  
写真：再開後初めての赤ちゃん誕生 (5月)



3月 里山の駅 庄原 ふらり オープン

## 2018年を 振り返る

広報しようばらのバックナンバーは、市ホームページからご覧いただけます。



<http://www.city.shobara.hiroshima.jp/main/government/koho/pr/>